健康と信頼をお届けする
日清製粉グループ

2018年3月期
決算説明会

2018年5月16日

株式会社日清製粉グループ本社

目　次

Ⅰ．2018年3月期 実績、及び2019年3月期 業績予想
Ⅱ．「ＮＮＩ－１２０　Ⅱ」の進捗と具体的成果
Ⅲ．小麦相場の状況
Ⅳ．国際貿易交渉

Ⅰ．2018年3月期 実績、
及び2019年3月期 業績予想

2018年3月期実績、及び2019年3月期業績予想

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

2018年3月期　実績

- 2016年9月に大山ハム㈱の株式譲渡を行い連結対象外となった影響が残る中、生産能力を増強した中食・惣菜事業の出荷拡大や設備工事の受注増等により増収
- 高付加価値製品や中食・惣菜等の出荷拡大、及び設備工事の受注増等が、広告宣伝費や中食・惣菜新工場の立上げに係る戦略コスト、及び海外製粉事業等のマイナスを吸収し増益

主要施策　・ロジャーズ・フーズLtd.　チリワック工場新ライン稼働　・日清STC製粉Co.,Ltd.　タイ国内で製粉工場を買収
・㈱ジョイアス・フーズ京都工場増強　・イニシオフーズ㈱名古屋工場新設

2019年3月期　業績予想

- 麦価改定に伴う小麦粉価格引上げ、加工食品の出荷拡大や設備工事の受注増等により増収を見込む
- 広告宣伝費や研究費、人件費等の将来に向けた戦略コストを積極的に織込むが、加工食品の出荷拡大、設備工事の受注増等により微増益を見込む

主要施策　・ミラー・ミリング・カンパニーLLC サギノー工場新ライン稼働予定　・OYインド Pvt.Ltd.　イースト新工場建設中

（百万円）

	2018年３月期実績	前年比	2019年3月期業績予想	前年比
売上高	540,094	+1.5%	565,000	+4.6%
営業利益	27,200	+6.6%	27,500	+1.1%
経常利益	31,800	+4.8%	32,000	+0.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	21,339	+9.6%	22,000	+3.1%

※金額は百万円未満切り捨て

Ⅱ.「ＮＮＩ－１２０ Ⅱ」の進捗と具体的成果

「ＮＮＩ－１２０ Ⅱ」の進捗と具体的成果（１）
～ 海外製粉事業の拡大 ～

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

日清ＳＴＣ製粉Co.,Ltd.(※)が製粉工場を買収 タイで第4位の製粉会社に拡大

（※）1991年に設立した日清製粉㈱のタイ子会社、以下、日清STC製粉

本年３月、Pacific Flour Mill Co.,Ltd.よりタイ国内の製粉工場を買収し、小麦粉生産能力を2.3倍に増強

（原料小麦ベース）

- 新工場（シラチャ工場）：生産能力 **350**ﾄﾝ／日
  日清STC製粉全体では630ﾄﾝ／日に拡大
- 取得価額：約18億円
- 買収の目的
  - タイ及びアセアン諸国の経済発展を背景とした食生活の多様化に伴う小麦粉需要の拡大に対応
  - タイ国内のお客様に加え、これから進出を検討されている日系のお客様向けの小麦粉供給拠点


（シラチャ工場）


（パパデーン工場）

カナダ第４位のロジャーズ・フーズLtd. 2017年10月、バンクーバー近郊のチリワック工場で新ライン本格稼働

パン用小麦粉に加え、北米市場で唯一の本格的な中華麺用小麦粉をカナダ・アメリカで拡販。米国のミラー・ミリング・カンパニーLLCと連携し、北米でのプレゼンスを高めていく

（原料小麦ベース）

- 新ライン：生産能力 **250**ﾄﾝ／日
  （増設後のロジャーズ・フーズは770ﾄﾝ／日となり約50%増強）
- 投資額：約34億円

米国第4位のミラー・ミリング・カンパニーLLC サギノー工場新ライン増設工事は順調に進捗

（原料小麦ベース）

- 新ライン：生産能力 **600**ﾄﾝ/日
  （増設後のサギノー工場（テキサス州）は1,480ﾄﾝ/日となり約70%増強）
- 投資額 ：約68億円（完工時期2019年初頭）

■チリワック工場



■サギノー工場（新ライン）



「ＮＮＩ－１２０ Ⅱ」の進捗と具体的成果（２）
～ 海外イースト事業の拡大 ～

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

オリエンタル酵母工業㈱インド子会社（OY インド Pvt.Ltd.）がイースト工場を建設
目覚ましい成長を遂げるインドのパン市場で高品質なイーストを供給していく

インド進出の狙い

市場成長性 ～ チャパティ・ナンからパンへ**食のシフト**

経済発展に伴い拡大が続くインドの巨大なパン市場でイースト事業の高い成長性が期待できる

立地優位性 ～ **原料の糖蜜**と**生産に要する水資源**

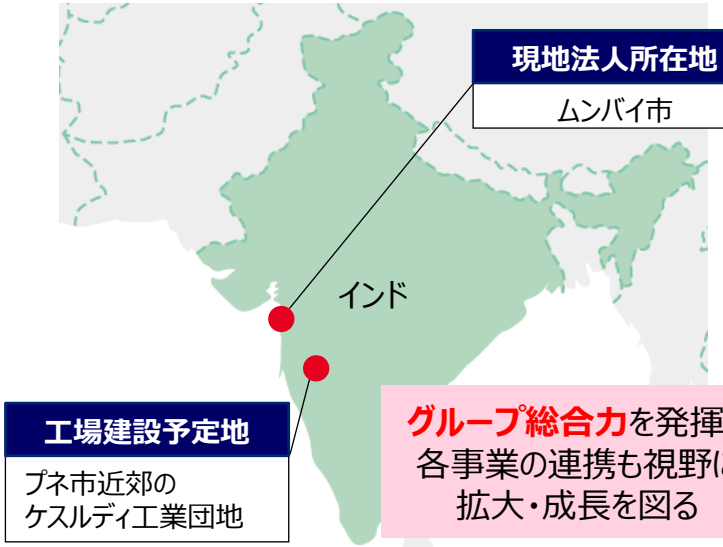
イースト原料となる糖蜜の生産量が世界第２位のインド
糖蜜と水資源の供給力豊富なプネ市近郊に工場を建設予定

技術優位性 ～ **品質**と**コスト競争力**

日本で培った培養技術等のノウハウで高品質でコスト競争力のある生イーストの安定供給が可能

万全の環境対策 ～ **現地のモデル**となる工場設計

Zero Liquid Discharge Systemで工場外への排水ゼロを実現



グループ総合力を発揮し
各事業の連携も視野に
拡大・成長を図る

新工場の概要

【生産能力】　日産100㌧（生イーストベース）
【完工時期】　2020年夏頃
【投資額】　約157億円


新工場完成予想図

「ＮＮＩ－１２０ Ⅱ」の進捗と具体的成果（３）
～ 中食･惣菜事業の強化 ～

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

少子高齢化、女性活躍等の社会の変化が食市場に構造変化をもたらすことを想定し、コア事業である原料･加工食品事業に新たに調理分野を加え、**食卓まで見据えた加工食品事業への事業領域の拡大**を目指し参入。市場拡大が続く中食･惣菜事業を成長分野と位置付け、**グループの主力事業に育てる**べく取組みを強化

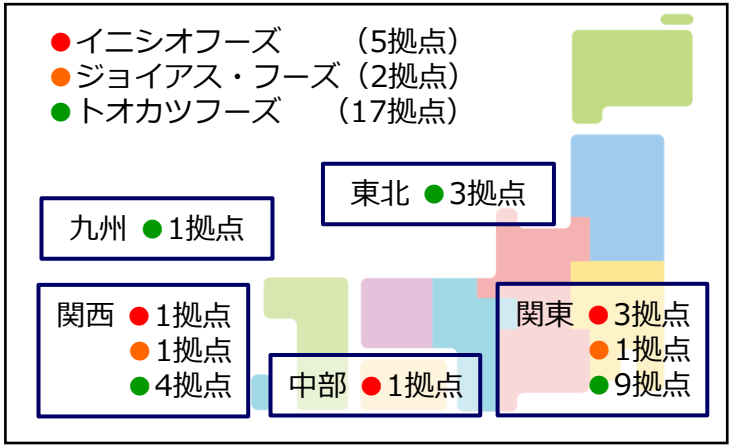
当社グループの中食･惣菜事業体制

当社グループの**「総合中食･惣菜事業」**
- 商品開発力と品質管理ノウハウを持つ惣菜商品フルラインアップ体制
- 全国的な生産拠点、幅広い生産ノウハウ

イニシオフーズ㈱	㈱ジョイアス･フーズ	トオカツフーズ㈱
和惣菜等	joyous 調理麺等	弁当、おにぎり、サンドイッチ、惣菜等
2004年3月 設立	2016年1月 連結子会社化	2012年12月 持分法適用関連会社化

（生産拠点）

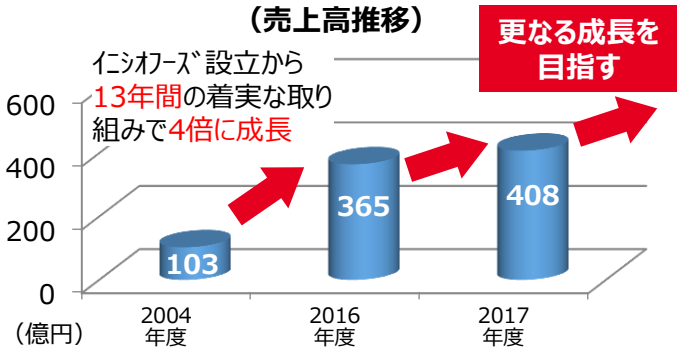
2017年10月現在



- ジョイアス･フーズ京都工場 生産能力増強（4月）
- イニシオフーズ名古屋工場 稼働（９月）



中食･惣菜事業　成長の歩み（売上高推移）



事業影響因子

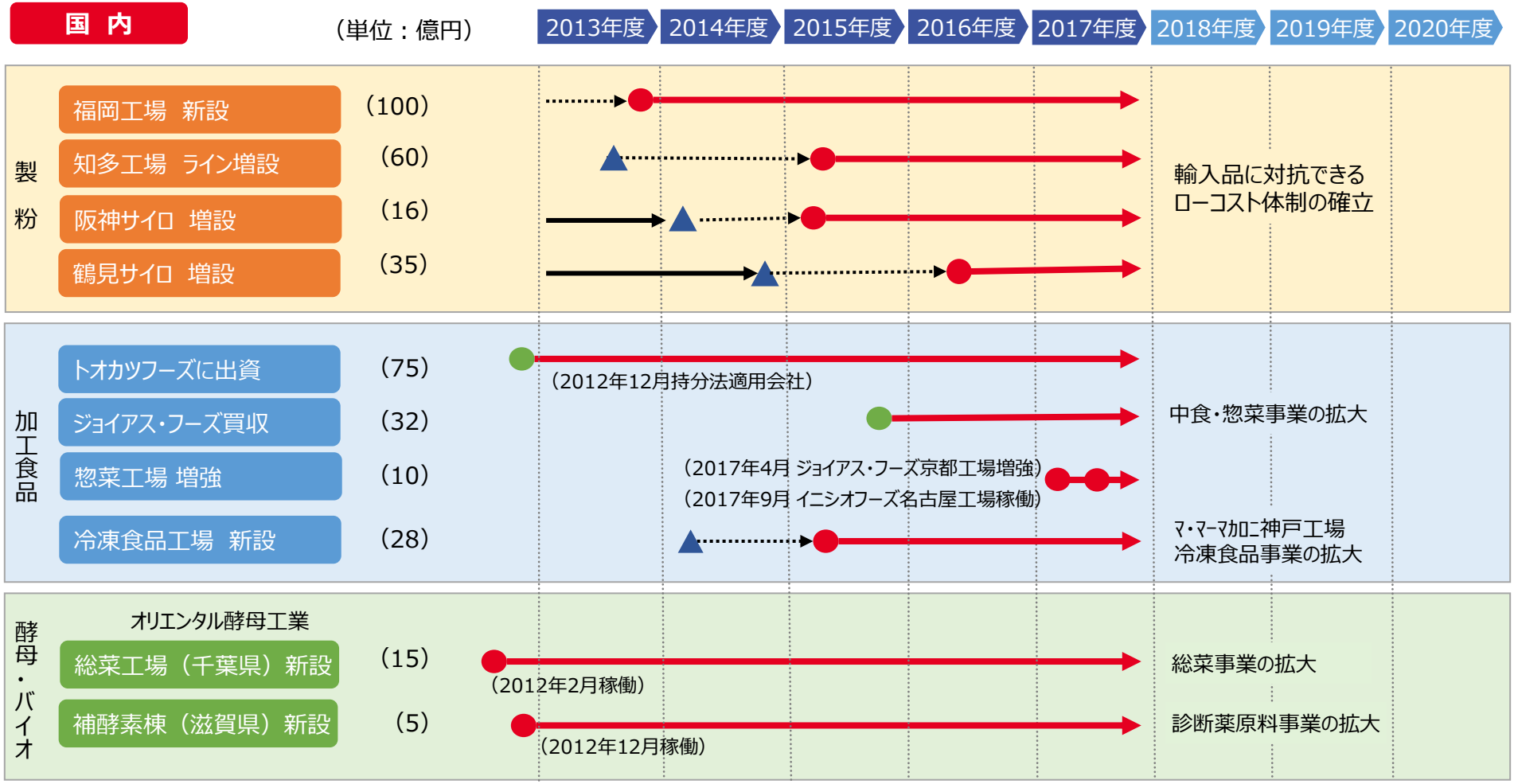
課題	・人口減少 ・人手不足問題
機会	・高齢化 ・単身世帯の増加 ・女性の就労増加 ・多様化ニーズ ・製品安全ニーズ
当社の強み	**・製品開発力、生産技術力** **・グループの幅広い事業領域**

「ＮＮＩ－１２０ Ⅱ」の進捗と具体的成果（４）
～ 主な戦略投資(国内) ～

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

（　　） 投資額（概算、見込み）　▲（着工）　●（稼働）　●買収・出資

国 内　（単位：億円）

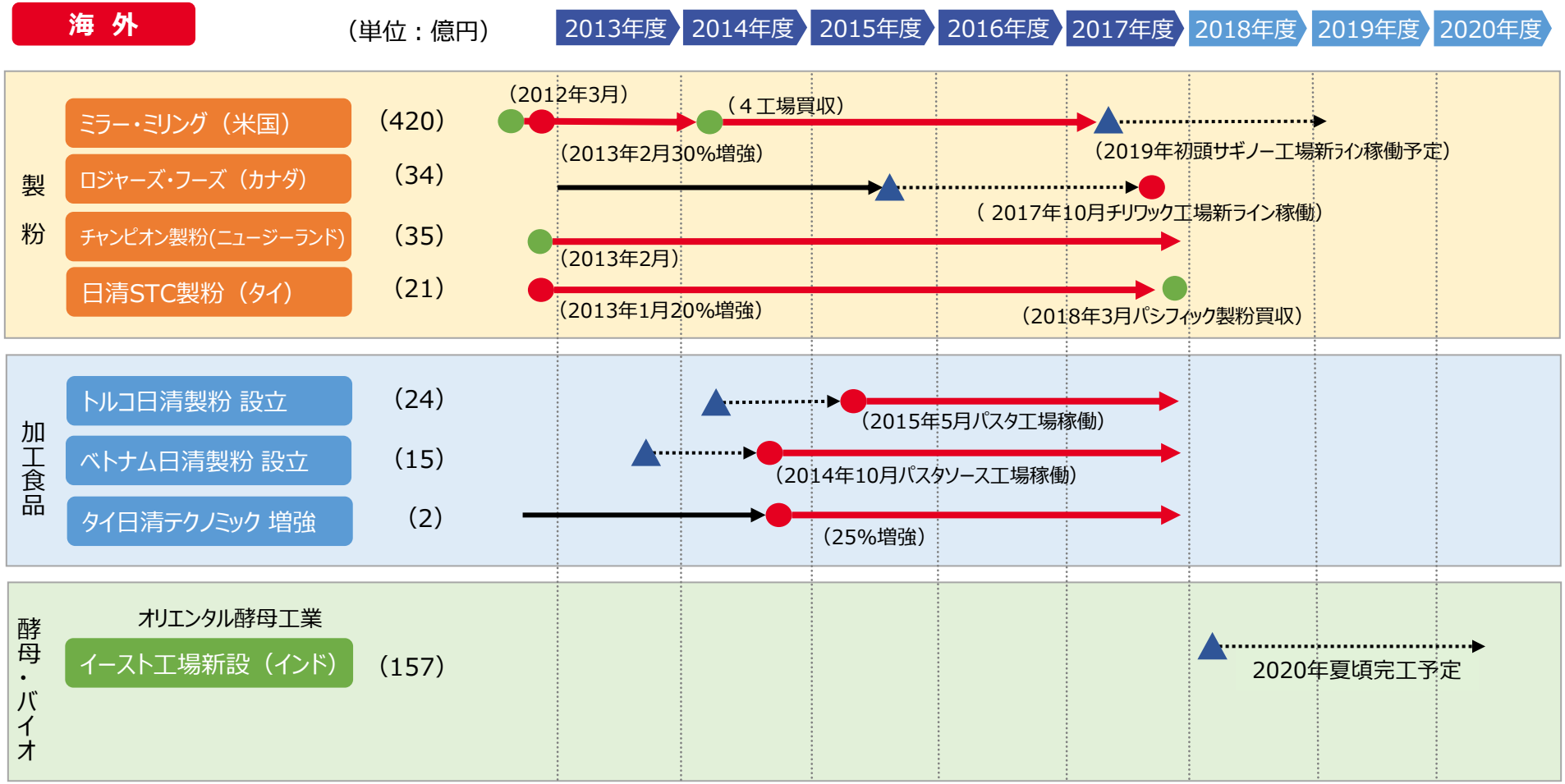


「ＮＮＩ－１２０ Ⅱ」の進捗と具体的成果（５）
～ 主な戦略投資(海外) ～

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

（　） 投資額（概算、見込み）　▲（着工）　●（稼働）　●買収・出資

海 外　（単位：億円）



国内・海外 合計　約1,000億円（今後予定されているインドのイースト工場建設を含む）

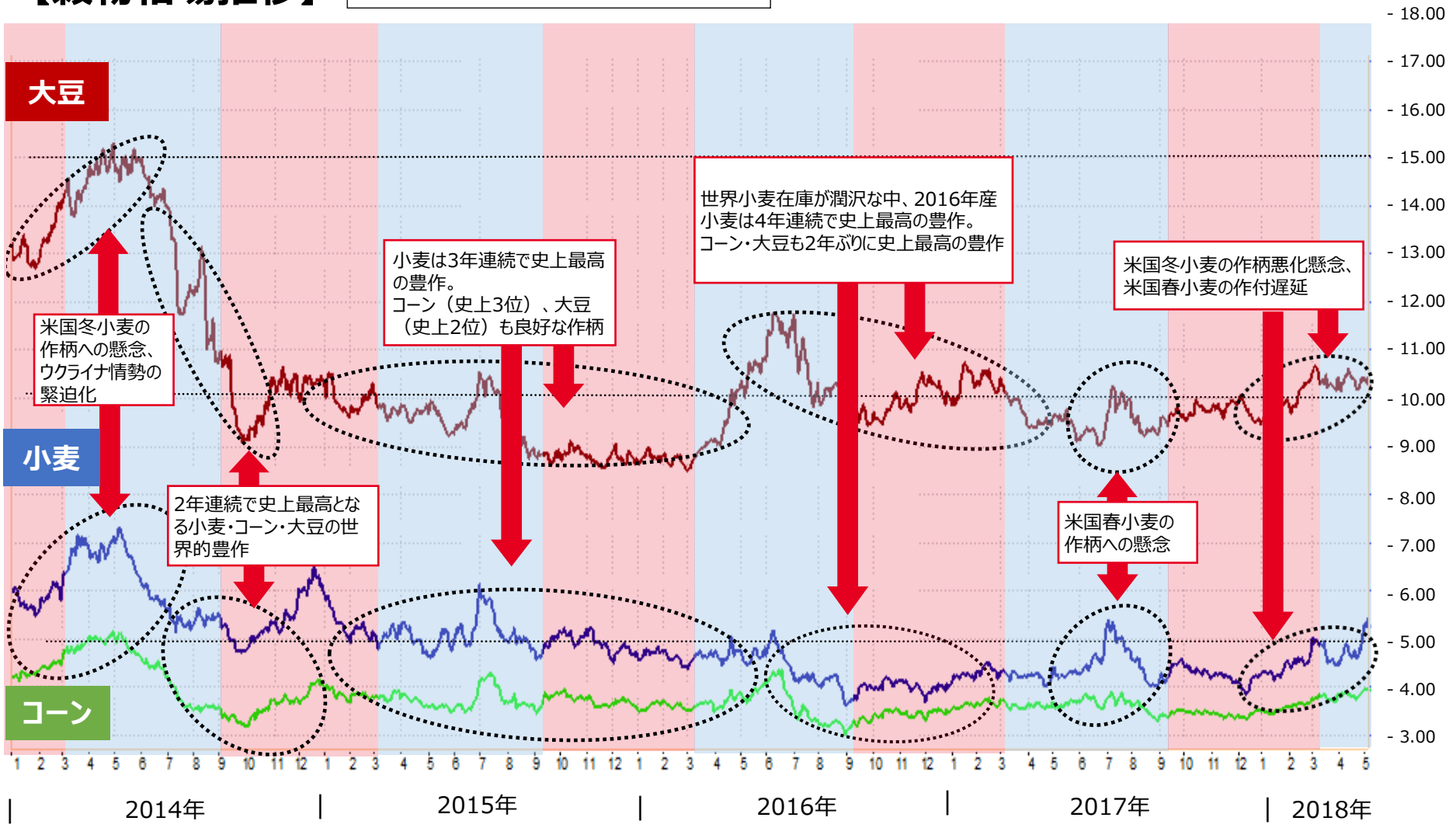
Ⅲ．小麦相場の状況

小麦相場の状況（１）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

【穀物相場推移】

シカゴ先物相場　（単位：ＵＳ＄／Ｂｕ）



注）　グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

小麦相場の状況（２）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

【２０１８年４月期　麦価改定】（改定額算定期間：2017年9月第２週～2018年3月第１週）

- 小麦相場（シカゴ）は、世界的に潤沢な在庫・供給量を背景にシカゴ相場は軟調に推移した。一方、高タンパク質小麦の減少懸念や収穫の遅れ等による日本向け輸出価格の上昇、燃料油価格の上昇による海上運賃の上昇、円安の影響等により輸入価格は上がった。

２０１８年　４月　１日　～　輸入小麦政府売渡価格　５銘柄平均３．５％値上げ

（ハード系小麦は3.4%、ソフト系小麦は3.5%の値上げ）

2018年　６月20日　～　日清製粉㈱業務用小麦粉を値上げ

【今後の小麦相場の変動要因】

上昇要因

・米国における乾燥傾向の天候に伴う2018年産冬小麦の作柄悪化懸念

・2018年産北米春小麦の作付遅延

下落要因

・2017年産小麦の豊作に伴う潤沢な世界小麦在庫見通し

・豊作に伴うロシア産小麦の輸出競争力の高まり等による米国産小麦の輸出低調

Ⅳ. 国際貿易交渉

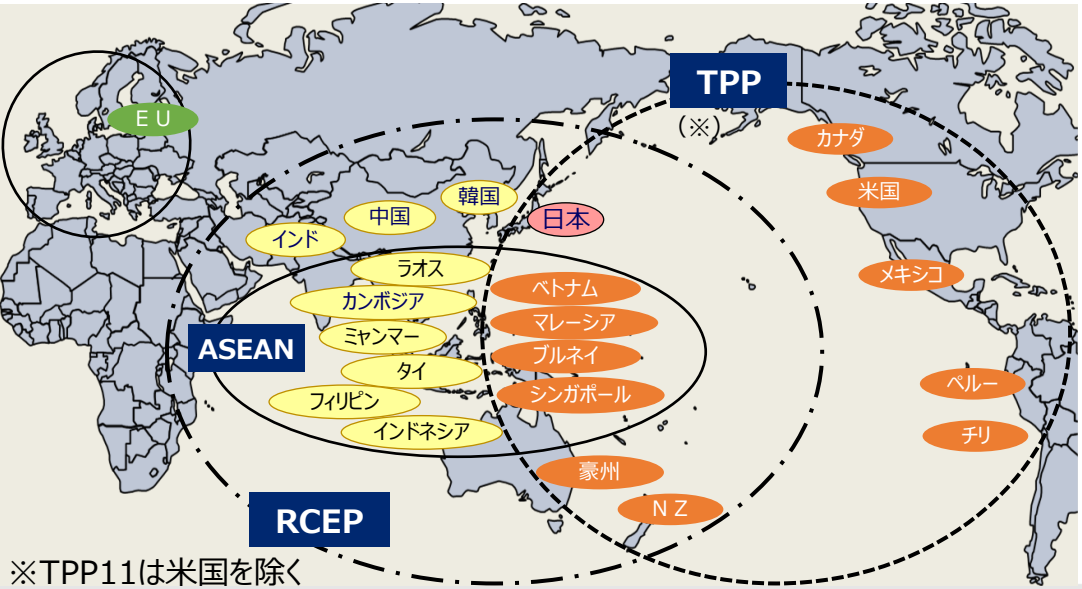
国際貿易交渉（１）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

保護主義の台頭も受け貿易自由化等を巡る各国の主張には隔たりが大きいが、**国際交渉は世界的に広がりを見せており注視**していく必要がある

環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ／ＴＰＰ１１）

・2016年2月　参加12ヵ国が協定文書署名
・2017年1月　米国が離脱を通知
・2017年3月　米国以外の11か国による閣僚会合（チリ）
・2017年11月11か国による閣僚会合でTPP11協定に大筋合意（ベトナム）
・2018年1月　11か国による首席交渉官会合で協定文が最終確定（東京）
・2018年3月　11か国によりTPP11協定に署名（チリ）



※TPP11は米国を除く

日ＥＵ経済連携協定（日ＥＵ･ＥＰＡ）

・2017年7月 大枠合意（ベルギー）
・今後、署名に向け協議が進められる予定
・日本政府は農林水産業の体質強化対策を含めた「日ＥＵ経済連携協定交渉の大枠合意を踏まえた総合的な政策対応に関する基本方針」を決定

東アジア地域包括的経済連携（ＲＣＥＰ）

・2017年11月に首脳会合開催（フィリピン）
関税や貿易ルールを巡る自由化水準について各国の主張には隔たりがある状況
・2018年4月交渉官会合開催（シンガポール）

日米経済対話

・2017年2月 日米首脳会談（米国）で相互の経済協力を話し合う枠組みとして設置に合意し、10月に2回目の会合を実施
・2018年4月 日米首脳会談（米国）で「自由で公正かつ相互的な貿易取引のための日米協議」の開始に合意。今後、米国は自動車や農産物の市場開放を視野に入れ、日米FTAを求めてくる可能性がある

国際貿易交渉（２）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

ＴＰＰ１１、日ＥＵ・ＥＰＡ の内容と国内小麦粉市場への影響

品目／（現行税率等）	ＴＰＰ１１（2018年3月署名）	日ＥＵ・ＥＰＡ（2017年7月大枠合意内容）	日ＥＵ・ＥＰＡの国内小麦粉市場への影響
小麦（マークアップ 17円/kg）	**①国家貿易維持** ・枠外税率維持（55円/kg） ・マークアップは9年目までに45%削減 **②国別枠を新設（SBS方式）** ・当初7.8万ﾄﾝ→7年目10.3万ﾄﾝ ・枠内のマークアップも①と同水準に設定	**①国家貿易維持** ・枠外税率維持（55円/kg） **②ＥＵ枠を新設（SBS方式）** ・当初200ﾄﾝ→7年目270ﾄﾝ ・枠内のマークアップは9年目までに45%削減	TPP11 ・米国の離脱に伴い、輸入の半数を占める米国産小麦のマークアップは削減されず、輸入国ごとの小麦価格の不均衡がもたらす国内小麦粉市場の混乱が懸念 日EU ・ＥＵからの小麦輸入は、年間6千ﾄﾝで日本の全小麦輸入量の0.1%程度。新設されるＥＵ枠もごく少量で影響は殆どないと想定
いった小麦、小麦粉等（小麦粉の場合：90円/kg）	**ＴＰＰ枠又は国別枠を新設** ・当初12.5千ﾄﾝ→6年目17.5千ﾄﾝ ・枠内は即時無税＋マークアップ（枠外税率は維持）	**ＥＵ枠を新設** ・当初3.8千ﾄﾝ→6年目4.4千ﾄﾝ ・枠内は即時無税＋マークアップ（枠外税率は維持）	TPP11 日EU ・ビスケット等も含めた小麦二次加工製品の輸入増大が懸念され、**原料となる輸入小麦のマークアップ引下げが不可欠**
小麦粉調製品（16%～28%）	**ＴＰＰ枠又は国別枠を新設** ・当初21.8千ﾄﾝ→6年目30.5千ﾄﾝ ・枠内は即時無税（枠外税率は維持）	**ＥＵ枠を新設** ・当初12.4千ﾄﾝ→6年目17.2千ﾄﾝ ・枠内は即時無税（枠外税率は維持）	
ビスケット（13%～20.4%）	**6年目に関税撤廃**	**6～11年目までに関税撤廃**	
マカロニ・スパゲティ（30円/kg）	**9年目までに関税60%削減**	**11年目までに関税撤廃**	日EU ・ＥＵからのパスタ輸入量は国内市場の約28%を占めており、パスタの関税撤廃は脅威。**原料となるデュラム小麦のマークアップの実質的撤廃が不可欠**
今後の留意点	・パスタ・菓子等について、政府が発表した「総合的なＴＰＰ等関連政策大綱」の内容を踏まえた、小麦マークアップの実質的撤廃（パスタ原料）・引下げの協定発効時における確実な実施 ・米国がＴＰＰに早期に回帰し米国産小麦のマークアップが豪州・カナダ産と同様の扱いとなる様、関係者に働きかけていく		

国際貿易交渉（３）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

国際貿易交渉に対する当社の視点

①現在日本で使用されている小麦の９割は海外に依存しており、食糧安全保障面で支障がないよう、**国民の主要食糧である小麦の安定確保**が重要

②小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を踏まえ、交渉においては、原料小麦、小麦関連製品の**輸入国境措置の整合性**が不可欠

当社グループの対応

①関税等の国境措置が低下しても、海外の製粉会社や海外からの輸入品との競争に勝ち抜ける**コスト競争力の強化策を引き続き実行**する

②引き続き国内に事業基盤を確保して、**お客様へ安全で安心な小麦粉製品を安定的に供給**していくことが重要であり、製粉産業、食品産業が毀損しないように、政府にマークアップ引下げを要請していく

記載内容に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。